

ちやいると NET 八日市

第35号

編集・発行 ちやいるとネット八日市 2026年(令和8年)3月15日
 事務局 八日市コミュニティセンター内 TEL 0748-23-4120 (IP 050-8034-1141)

中学生の主張

ちやいるとネット八日市 会長 森 正

「第53回青少年の主張大会」(11月15日(土)、市役所会議室、東近江市青少年育成市民会議八日市支部・滋賀報知新聞文化振興事業団主催)を聞かせてもらいました。小学生から社会人まで、どの発表も自らの体験をもとにした率直で熱のこもった傾聴すべき内容でした(全員、「優秀賞」受賞)。そんな中で注目したいのは、中学生の「日本の選挙投票率について」という主張です。

まず、テレビで政治家の嘘や失言など悪い面ばかり報道されることから、選挙に行こうとは思えない正直な気持ちが明かされます。そこで、悪いことができないよう、政治家が自分たちのやっていることを全て公表することと、フィンランドに習い、幼い頃から選挙が身近になる取り組みをすることを提案しています。そして、選挙権のない中学生にも分かりやすい言葉で政策が語られ、政

治が身近な存在になるよう付け加えています。

論語に、「由(よ)らしむべし 知らしむべからず」という有名な言葉があります。広辞苑によると、本来の意味は、「人民を為政者の方策に従わせることはできるが、その理由を理解させることは難しい」だそうです。現実には、政治家に孔子先生の「徳」を期待するのはかなり難しく、一般大衆もそれほど馬鹿ではありません。

中学生から今の社会や学校教育のあり方について意見が出てくるということは、この国に希望があるということです。子ども達が社会の現実に目を向け、自由に自分の意見を表明できるよう、子ども達の意見を尊重しながら活動を進めていきたいと思います。

「知らしむべし 由(よ)らしむべからず」
 (西園寺公望「人民読本」(竹越著) 巻頭)

授業見学と懇談会(聖徳中学校)

11月4日(火)の午後、ちやいるとネットの役員を中心に教育に関心をお持ちの中野地区や建部地区の方にも加わっていただき、計9名が学校訪問しました。5限は佐々生教頭先生の案内で授業を見せていただき、6限は事前にみなさんが関心を寄せられた話題について大橋校長先生にざっくばらんに応えていただき、意見交換しました。

みなさん、学校が落ち着いている様子に驚かされていました。かつて“やんちゃ”で鳴らした聖中が粘り強く、「優しいけれど甘くない、厳しいけれど冷たくない」(聖中HP)姿勢で生徒達と本気で向き合ってきたことが実を結びつつあるのだと実感しました。

教員不足・年齢構成の偏り・超過勤務、地域や家庭の教育力の低下など困難な教育条件にもかかわらず、学校づくりに励んでおられることに敬意を表しつつ、学校教育に応えられるよう、引き続き学校と連携した地域教育を追求していきたいと思います。



八日市キッズ夏休み学習会

7月22日(火)23日(水) 8月4日(月)5日(火)の4日間、例年のようにちやいどネット主催「八日市キッズ夏休み学習会」を開催しました。8回目の開催になります。

今年も、北小学校・箕作小学校にご協力をいただき、学校を通して子どもたちに案内を配布しました。

定員30名でしたが、多くの申し込みをいただき、定員オーバーでお断りをした方もおられたこと、申し訳なく思っています。

北小12名・箕作小19名・計31名が参加してくれました。また、八日市地区だけでなく中野地区・建部地区からも多くの参加者がありました。さらに今年の特徴として、2年生以上のリピーターが20名(率にして70%)と多かったことがあげられます。昨年参加して良い会だったので、また参加しようと申し込み直後から応募してくれたのだと思います。



じゃんけん列車で顔合わせ



休憩を挟んで、45分×2限の学習時間



今年は高校生ボランティアが、23人の登録で、毎日交代で8~10人前後参加してくれました。大人のボランティアの方も7~8人いてくださったので、充実したスタッフで運営することができました。また、小学生と交流する機会を持つことで高校生ボランティアの皆さんの成長にもつながったのではないかと思います。

休憩時間のお楽しみでは、日替わりでダンス、ピアノによる曲あてクイズ、低学年・高学年に分かれての本の読み語り等文化活動を楽しみました。ダンスはステージに上がり先生と一緒に踊る子がいたり、音楽クイズはコマーシャルソングもあったりして、盛り上がっていました。読み語りは、静かに物語の世界に浸っていました。



キムさんのジャズダンス



灰谷さんの音楽クイズ



熊木さんの読み語り



南さんの読み語り

学習時間は自分なりの課題をしっかりと学習し、休憩時間はいろいろな文化的活動にふれ、また高校生のお兄さんやお姉さん大人の方と触れ合う時間を持つ、そんな充実した4日間をすごしてくれたのではないかと思います。来年も、ぜひ続けていきたいです。



最後に、全員集合

中学生と大人のしゃべり場

普段関わることの少ない中学生と地域の大人が、「楽しくトーク、本音でトーク」。12月24日(水)二学期終業式の午後、今回は中学生のみなさんが通う聖中にお邪魔させていただき、生徒会役員のみなさん12名と同人数の地域の大人のみなさんがおしゃべりを楽しみました。

おしゃべりを通して、生徒と大人それぞれのみなさんにとって、自らの生き方を考え、互いの温もりに触れる機会になったのではないかと思います。

学校と地域のみなさんのご理解・ご協力で、コロナ禍の中断を挟んで通算5回目の開催となりました。

全体の流れ

同じ人数の生徒と大人が二重の輪をつくって向き合って座る → 連想ゲームでアイスブレイク → 進行説明 → 自己シートを使って自己紹介 → お題(質問)をもらった人はありのままの自分になってお向かいの人におしゃべり、お向かいの人は聞き役に徹する → お向かいの人としゃべり役、聞き役を交代 → フォークダンスのようにおしゃべり相手とお題を替えながらお相手全員とおしゃべり → 振り返りアンケート → 森生徒会長挨拶・友本ちゃいるどネット副会長挨拶



生徒会顧問の先生方

多くのみなさんが印象に残ったと答えたお題の組合せ(生徒向けお題(左)×大人向けお題(右))

- いてよかったと思う友達×出会えてよかったと思う人
- 自分を褒めてあげたいこと×日頃大切にしていること
- 勉強するのは何のため×人生の転機になったこと
- 平和学習で印象に残っていること×戦後80年について思うこと

中学生のアンケートより

- あまり話す機会のない大人の人たちと本音で話せて楽しかったし、興味がわいた。
- 身近なお題もあれば、これからにつながるようなお題もあって、よく考えながら自分の本音を言えて楽しかった。
- はじめは、すごくドキドキしていたけれど話していくうちに、お互いの考えや価値観を伝え合うことができよかった。
- 同世代の人たちじゃできない話ができ、面白かった。
- 年齢がかけ離れているから、自分とはちがう話をたくさん聞いて良い機会だったなと思いました。
- 実際に、自分の思いをありのままに話すことで共感してくれる人や、アドバイスしてくれる人がいて、嬉しかったです。
- 進路や成績で困っていることがあったので、本当に体験したことを話してくれて、・・・気持ちが救われました。
- 戦争の話を聞いて、今があることは当たり前なことじゃないんだなと思いました。

大人のアンケートより

- 中学生の生の声が聞けて新鮮でした。多くの中学生、大人に体験して欲しい。
- 中学生の方の話が良かった。孫にも話して感想を聞きます。
- 大人へのお題は、自分の強烈な振り返りとなりました。
- 「戦争はだれの利益にもならない悪いことしかないから、絶対しちゃダメと思う」とのこと
- 質問によってふと見せる中学生らしい素顔が可愛かった。これからいろんなことがあると思うけど頑張りたいと思った。
- 生徒さん達が本当に元気で素直で素晴らしいと思いました。私どもの時代は・・・良い子を演じているところがありました、大きな違いを感じました。
- 先生のお話(「初恋の思い出」についてインタビューしました)がとても生徒さんには受けていました。
- 聖中が会場だったので、生徒さんがとてもリラックスしておられ、例年よりも会話が弾んだような気がしました。

2025年度（令和7年度） ちゃいるどネット八日市 役員 （年1回の発行のため年度末の掲載、敬称略）

役員名	氏名	所属	役員名	氏名	所属
会長	森 正	ちゃいるどネット	代表委員	小菅 利裕	自治連合会副会長
副会長	凶師 孝彦	ちゃいるどネット	代表委員	加川 裕子	民生委員主任児童委員
副会長	友本喜代子	ちゃいるどネット	代表委員	大橋 利恵	民生委員主任児童委員
事務局	中川 晴美	ちゃいるどネット	代表委員	加川 泰正	社会福祉協議会会長
会計	灰谷 実	ちゃいるどネット	代表委員	篠原 耕平	冒険遊び場づくりP J
監事	南 ひとみ	前年度聖中PTA	代表委員	鈴木久瑠美	北小PTA
監事	小島 友美	前年度北小PTA	委員	竹中 洋美	コミセン協力委員
代表委員	浦根 悦夫	まちづくり協議会代表	委員	井上 淳子	ちゃいるどネット
代表委員	西村 公一	コミセン館長	委員	尾方知加子	ちゃいるどネット
代表委員	高木 輝子	ぼっぶ八日市	委員	福田真由美	ちゃいるどネット

2025年度（令和7年度） ちゃいるどネット八日市関連事業

6月7日（土）	「第1回代表者会」 事業・収支決算報告，役員・事業計画・予算審議，他
6月15日（日）	「ようかいちコミセンフェスティバル」遊びのコーナー担当 手づくり射的 手づくりけん玉 割りばし鉄砲 水中ダーツ
7月22日（火）・23日（水） 8月4日（月）・5日（火）	「八日市キッズ夏休み学習会」開催
10月26日（日）～11月2日（日）	「文化祭パネル展示」
11月4日（月）	「聖徳中学校授業見学との懇談会」開催
11月15日（土）	「青少年の主張大会」（青少年育成市民会議主催）参加
11月30日（土）	「人権まちづくり協議会研修会」参加
12月24日（水）	「中学生と大人のしゃべり場」開催
3月14日	「第2回代表者会」 本年度の活動報告，次年度以降の活動検討，他
3月15日	「広報誌」発行



< 編集後記 >



戦後 80 年。私の年齢が 70 歳。2つの数字を並べて気付きました。あまりの「近さ」に。考えてみれば、そりゃ、そうなのかもしれません。私の思い出の中で「戦争」は、それほど昔の話ではないからです。あれは、私が小学校低学年の頃でした。母と一緒に乗った電車の中に腕が片方ない兵隊さんが乗っておられました。その姿が小学生の私にはあまりに衝撃的で長い間じっと見つめていたのを覚えています。

又、戦争孤児の従兄弟がおりまして、幼くして両親のいないさみしさや悔しさを毎日感じながら育ちました。大人になってもさみしい

気持ちには埋まることはなかったと聞きます。

さて、今年も「ちゃいるどネット」の活動の中で、たくさん子どもたちと出会う機会をいただきました。彼らは10代まで。戦後80年からは少し遠くなりました。彼らの親は50代まででしょうか。やっぱり少し遠いでしょうか。でも、いつの時代であろうと「戦争はいやです。平和が一番いい!!!」ですよね。でも、「平和」は何も努力をしないと離れていきます。

「平和の最大の敵は無関心

戦争の最大の友も無関心」

(沖縄の平和運動家 あはごんしょうこう 阿波根昌鴻氏の言葉)

(T.K.)

